

道具を大切に作る心 ～大事にすると、道具から大事にされます～

ずいぶん前のことになります。顧問をしている卓球部の生徒から「先生、おこづかいが貯まったので、ラバーを注文してください。」と頼まれました。卓球では木製のラケットにゴムでできたラバーというシートを貼ってボールを打ちます。ゴム製ですから使っていると少しずつ劣化して弾みにくくなったり、摩擦がなくなったりするため、貼り替えないといけません。現在よりは値段も安かったと思いますが、それでも中学生のお小遣いですぐ買える金額ではなかったと思います。きっと、親にねだらずふだんのこづかいをこつこつと貯めて道具をそろえていたのでしょう。



確かにその生徒は、いつも練習が終わるとラケットにしていねいにクリーナーをかけ、バッグにしまっていました。派手さはありませんでしたが、いつも堅実なプレーでチームに貢献してくれる生徒でした。

みなさんもふだん筆記用具やノート、部活動の道具や衣類など、いろいろな道具を使っています。そうした道具を大事にしていますか。乱暴に扱ったり、管理ができていなくて行方不明になったりしていませんか。職員室へも時々落とし物としていろいろな品物が届けられます。中には記名がなく届いていないか問合せもないため、持ち主に返せない物があるのは残念です。(誰かの忘れ物が、お迎えを待っていますよ。)

一流選手は道具の管理でも一流

昨年現役を引退しましたが、プロ野球界のスーパースター、イチロー選手も道具を大切にすることで有名です。

彼は試合の後には必ず、念入りにグラブの手入れをすることを怠りませんでした。汚れを落とし、丁寧に磨き、形が崩れないようにしたうえで、次の試合に備えて保管しておくことを毎回繰り返したそうです。イチロー選手はこんなふうに語っています。



「道具を大事にする気持は野球がうまくなりたいたい気持ちに通じる。」

「丹念にグラブを磨くことで、一つひとつの自分のプレーにかける思いは強まり、道具作りにかかわった人たちへ感謝の念が湧いた。」

イチロー選手は守備でも、また打撃でも超一流でした。野球選手の中には打席でボールを打った後、バットを投げ捨てて走る人や、上手く打てなかったときバットを地面にたたきつけるように放り出す人がいます。イチロー選手は決してそんなことはせず、いつでもバットを横たえるように置いてから走っていました。一度だけ凡打した悔しさから、バットを投げ捨てたことがあったそうですが、その後イチロー選手はバットを製作した職人さんに謝罪の手紙を送ったそうです。ホームランの世界記録をもつ王貞治さんや、三冠王に三度輝いた落合博満さんもバットを大切に扱っていました。みなさんもソフトボールの授業で、バットをかごに入れてから走っていましたね。

道具を大事にすると、その道具から大事にされます。必要な時にちゃんと役に立てくると言うことです。大事にしていけないといつの間にか壊れたり、質が落ちたりして、使いたい時に使えないことがあるのです。これからは無駄をなくし、資源やエネルギーを有効に使っていこうという時代です。道具を大事にする、大切に使うことを心掛けたいですね。

